

## 宮城県東松島市への会派視察の報告

維新の会 辻 信行

【視察年月日】平成30年5月9日(水)

【視察先】宮城県東松島市

【視察項目】「東松島市の災害対策について」

【視察目的】

東日本大震災で大きな被害を受け、今なお復興の途上にある東松島市の防災対策の取組を視察し、尼崎市の災害に備えたまちづくりの参考とする。

【視察内容】

東松島市役所を訪問し、「東松島市総務部防災課」の職員から状況説明を受けた。

また、東日本大震災後に建設した「防災拠点備蓄基地」の視察も行った。

(東松島市の東日本大震災での被災状況)※人口約40,000人

市民の犠牲者:1,109人 行方不明者:24人

(津波に対する備え)

震災前:過去の宮城県沖地震による浸水区域を想定して津波避難マップを作成し全世帯に配布していた。

⇒東日本大震災では想定を大きく上回る津波が発生し、甚大な被害を受けた。

震災後:

①2014年3月に「津波避難計画」を策定。同時に「津波避難マップ」を作成し、全世帯に配布した。

②計画の策定にあたり、各地区で結成している「自主防災組織」を中心に説明会を開催し、地元の意見をできる限り取り入れ決定した。

③東日本大震災では車両避難中渋滞に遭い津波の犠牲になった方が多かったため、徒歩避難を原則とした。

(洪水に対する備え)

100年に1回程度の大雨の規模を想定して、大雨により洪水で浸水が予想される場所を「防災マップ(洪水)」として作成し、全世帯配布している。

(土砂災害に対する備え)

土砂災害危険区域に住む世帯に対して個別に通知を送り、市から避難勧告等の発令があった場合に迅速に避難行動を行うよう注意を促している。

(自主防災組織)

市内全域で自主防災組織が結成されており、結成率は100%。「自助」の啓発活動と、地域での「共助」の活動を担っている。また、年1回の総合防災訓練、年2回の研修会を主催している。

(防災備蓄)

「東松島市防災備蓄計画」を策定し、市全体で食糧183,000食、飲料水183,000リットル、その他資機材を備蓄。全体の約半分の量を各避難所(24か所)に整備した「防災備蓄倉庫」に分散して保管し、残りの約半分の量を市中心部の「防災拠点備蓄基

地」に保管している。

(今後の課題)

- ① 市民が「逃げる」という意識を持たないと、ハザードマップや市からの避難に関する情報も宝の持ち腐れとなってしまう。津波や洪水の場合は、市から避難勧告などが発令されたら、「とにかく逃げる」という意識を市民全員が持ち続けることが非常に大切。
- ② 東日本大震災の記憶や教訓の風化が懸念される(被災地全体の課題)。
- ③ 防災備蓄の維持に毎年2,000万円が必要となり、費用負担も課題である。

【まとめ】

上記の【視察内容】は東松島市の取組の主なものであり、その他にも多くの取組を行っている。尼崎市でも同様の取組を行っているもの、取組が不十分なものがあることを学んだ。今回の視察での学びを、尼崎市での防災の取組に活かしていきます。

以上